

本論文は

# 世界経済評論 2017年9/10月号

(2017年9月発行)

掲載の記事です



## 世界経済評論

# 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

# 6,600円

税込

17%

送料無料  
OFF



定期購読  
期間中

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

# デジタル版バックナンバー読み放題!!



## 世界経済評論 定期購読



# ☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。  
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp  
雑誌のオンライン書店

なぜアセアンか 善きことはカタツムリのように前に進む(マハトマ・ガンジー)。差別と偏見が紛争をつくり、その解決には多大な犠牲も伴う。海のシルクロード、アジア圏の中心点が東方から南方にシフトとの思いが深まる。沸騰する熱気を肌で感じたい。まずは現地に飛び込むことにした。そこは、かつて宗主国統治。大航海時代から始まる植民地支配。第二次世界大戦まで続く。インドを始め、帝国主義・覇権主義全盛の時代は、宗主国側から差別と搾取、屈辱の従属関係。被支配者にとって良いことはない。文化的・経済的破壊は陰影として色濃く残る。独立国家の途は容易ではなかった。

ところが……

植民地支配からの脱却 クアラルンプールのホテルに着くと、部屋には Langston Hughes の詩の一節がカードとして置かれていた。

“HOLD FAST TO DREAMS  
FOR IF DREAMS DIE  
LIFE IS A BROKEN BIRD  
THAT CANNOT FLY.”

マレー半島で旧日本軍の軍票(ドル建て)を入手した。時代の証し。日本政府が支払いを約束すると(英文)。反感こそないが、心を捉え、言語、文化等が浸透、影響を残せたか。英国植民地政府時代は通貨流通、英語(結果としてグローバル言語)圏化。コモンローを定着。

かつてインド系はプランテーション労働力だった。華僑系の熱量は今に引き継がれ、インドネシア、ネパール、バングラデシュやフィリピンなど周辺国からの移民を雇用する。成長するマレーシアは常時人手不足。ムスリム6割の宗教国家。日中の礼拝は生活の一部。ハラール認証が不可欠だ。

緑化率30% シンガポールは自慢する。都市

でこれほど緑地面積が多い国はないと。たしかに、ガーデンシティーと呼ばれ、マリーナベイサンズホテルに隣接する植物園(ガーデンズ・バイ・ザ・ベイ)は「万博」を超える。毎日多くの人で賑わう地球環境型テーマパーク。他方、樹木が道路に覆い茂るリスク要因を抱え、朽ちた枝は車を直撃する。本年2月、世界遺産の Singapore Botanic Gardens(東京ドーム約13個分の広さ)で樹齢270年以上の巨木が倒れ死傷者、「カナダ建国150周年記念コンサート」は中止。力技のシンガポールに比べマレーシアは自然体。70%、うち60%の自然林と10%の人工林。収益性が低いゴムの木に代わりヤシが主流。パタフライ・パークやバードパーク、動物園なども賑わう。

フィジー、フィジー、フィジー

Bula! Vinaka! 明るい南太平洋の誇り高き共和国、大小330余りの島、人口約90万人。トンガと血縁深き人たちも多い。メラネシアのリーダー国、キャンパスも素晴らしい南太平洋大学。一大リゾートゾーン Nadi・

Denarau Marina は美観地区。ここには英国植民地の陰影は見受けられないし、公用語は英語、大半はクリスチャン。直行便はなくインチョン経由で。時差3時間。隣国オーストラリア、ニュージーランド、アジアからは中国・韓国あたりが多い。フィジー系住民がやや多数、インド系は約4割。インド系が増え続け政権まで掌握すると、クーデターに。現政権はほぼ安定。治安の課題を抱える。空港から首都 Suva(商業都市)へは夜間移動を避けタクシー移動(約4時間)。来年は総選挙、古参政治家・学界重鎮の Baba(バンバ)氏は、有権者の意識の変化、公明正大な選挙戦術が必要と強調する(1869年創業、The Fiji Timesの記事から)。

## 挑戦するアセアン、 南太平洋フロンティア

**歴史的港湾都市レブカ** 首都近郊の Nausori (ナウソリ) から空路 15 分、英国植民地時代の建築群の価値が評価され世界歴史遺産のあるオバラウ島へ。かつてはフィジー政府があった Levuka (レブカ)。宗主国の宗教的影響力の絶大さを今に伝える。遺産保護と観光開発システム構築、住民の生計と居住を目指す北海道大学 3 年プロジェクトは夏にも終了。現地で奮闘する JICA 専門家・加藤寛氏 (港湾スペシャリスト) も来年 3 月帰国。構築された現地ネットワークは有益だ。世界歴史遺産、未発掘の観光資源。貧しくとも穏やかな地域コミュニティは世界でも貴重。雇用の場を確保し住まう「生きた遺産」化。人のつながりはビジネスの基本。つながらない手はないと思えた。

**人生、山あり谷あり** 山村を訪問することにした。地形は火山系。道中の景色は沖縄と阿蘇を掛け合わせたよう。平野部は北海道のそれに近い風景。道はまだら舗装の難所続き。羊や山羊の群れ。四輪駆動車も疲労を増す。ドライバーが声を上げた。昨年あたりのサイクロンで道の様子が変わったらしい。間違えた。人生には逆境はつきもの。これも人生、いや旅。思えば順調だった。放牧の馬や牛、猪狩りの犬連れの一団。すべてが新鮮な景色だ。万事休すと思われた難所も幾たび乗り越えた。圧巻は落ちた橋。無理と思われた。が、落ちた横を躊躇なく突っ込んだ。川の水深を知り尽くしていたからか。無謀と紙一重。やり直すしかない。再チャレンジ。再び警察による道路封鎖あり、道路工事の片側規制も続く。洪水ともなれば橋が通れない箇所も通過。ロスタイムも含め片道約 5 時間。雨季、Suva 滞在中は雨の降らない日はなかったが、Nadi (ナンディ) では天候に恵まれ、この日も。

**まさに白川郷** Navala (ナバラ) 村到着。カバ (Kava) の儀式は割愛。ピリッとしびれるこの南太平洋一帯に生える胡椒科の木の根を乾燥さ

せた粉入り飲み物。入村に不可欠な儀式の省略は観光化の象徴？ 入村収入は大きな柱。もともと島内各地に散在する一族をまとめる形で 1800 年代にこの村が形作られた。村長は世襲制。世代間を含めさまざまな意見を調整するのは容易ではない。民主主義的な精神は根付く。もめごとは村長が指名する幹部会議の意見に基づき、村長が判断して解決する。手に負えない案件は警察に。裁判所は紛争解決手段として認識されない。司法＝警察の法意識。お酒は厳禁。年齢を問わない。若い女性たちの飲酒が発覚、鞭打ちの処罰。牛馬や山羊など家畜は居住地区に入れない。ニワトリと犬は OK。そういう掟。

村民 800 名、140 世帯。小学校 8 学年制全寮制 (約 160 名在籍、村外は 23 名)。全員クリスチャン。村民が築く教会。茅葺き屋根の住宅の維持は大変だ。サイクロン被害で倒壊、手付かず。行政支援はなく村民による自助。日本では職人不足の網代編みなら、村民はみなできる。さようなら、moce モセ！

**富裕・貧困・平和** アセアン加盟国や南太平洋諸国の経済力格差は顕著だ。シンガポール国民一人あたりの名目 GDP はカンボジアの約 60 倍。良好な関係構築に託された日本への期待は、クール文化や高度科学技術。また「法の支配」、社会・経済の自律的安定と持続的成長のためのルール遵守の基本的インフラ整備も。植民地化を回避した維新から 150 年の蓄積。国際プレゼンスを高め、企業の海外展開の環境整備に。多少の停滞感を前にすると大胆な改革にはこれらの国から現代ニッポンも学ぶことはある。昇竜アジアの変貌と期待。リー・シェンロン首相の全方位外交は消極的に敵を作らないのではなく、積極的に味方を増やすことにある。積極的平和主義は武器だけではない。今こそ、ルック・サウス。

いけだ たつお 北浜法律事務所・外国法共同事業 弁護士